

第六期長期計画地域ワークショップの結果報告（概要）

1. 目的

- (1) 第六期長期計画の計画案について地域で活動する人たちに周知し、意見を求める。
- (2) 計画案の実効性や実現性について、ワークを通じて検討し、策定委員会へフィードバックする。
- (3) 市民活動団体同士の横のつながりができるきっかけにする。

2. 募集方法

2月に実施した関係団体意見交換会へ招聘した団体（819団体）に対し、案内通知を発送した。

各団体1名（代表者に限らない）まで申し込みできることを案内した。

3. 参加者決定者の内訳

当初の定員（60名）を超える63名の応募があり、全員を参加者として決定した。

区分	～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
人数	1名	1名	6名	10名	20名	15名	11名	63名
割合	1.5%	1.5%	9.5%	15.8%	31.7%	23.8%	17.4%	

4. 実施結果

6月23日（日）午後1時～5時 市役所 811会議室

参加人数 56名（12グループ）※傍聴者3名、託児2名

5. 市民ファシリテーターについて

- ・「コミュニティ未来塾むさしの」の修了生に協力を依頼し、13名の協力を得た。
- ・全体の進行及び各グループのファシリテーターを担った。

6. 当日のテーマ

参加者の募集の際に、当日話したいテーマの希望を取った。

参加者希望によるテーマ及びグループ数は以下のとおり。

テーマ名	参加人数	グループ数
公共施設再構築の住民合意のプロセス	4人	1グループ
市民活動団体の相互連携	13人	3グループ
子ども・子育て世代への支援	16人	3グループ
地域の担い手の発掘・育成	10人	2グループ
地域の防災・安全への取り組み	9人	2グループ
緑・環境を守る取り組み	4人	1グループ

※希望数が少なく、グループを作成できなかったテーマは以下のとおり。

- 「まちの魅力向上・発信」、「多様性理解の促進（性別、国籍、障害の有無など）」、
「市民とつながる情報発信」

7. プログラム

長期計画策定とワークショップの目的・趣旨説明
ワークショップの進め方の説明/自己紹介
グループワーク 「理想の地域像・ありたい姿」 ・参加者それぞれが、グループのテーマにおける理想の地域像やありたい姿を出し合い、グループで共有する
「理想の地域像・ありたい姿の‘登場人物（団体）’とは」 ・それぞれの地域像に関わる‘登場人物や団体（ステークホルダー）’を洗い出し、グループでの目線を合わせる。また、参加者同士の共通点を発見し、つながりを見つける。
「私たちがこれからやりたいこと」 ・理想像に向けて、私（団体）がやりたいことを出し合う。
「やりたいことに向けて、必要なこと・課題」 ・‘登場人物や団体（ステークホルダー）’も含めて、私（団体）のやりたいことを行うために、必要なことや行動、現状の課題などを出し合う。
「グループワークを通じて得た‘学び・気づき・感想’」 ・グループ内で対話をして得た、学びや気づき、感想などを話し合い、共有する。
全体共有 ・グループ内での気づき等を全体に向けて発表する。

8. 各グループの全体発表

◆子ども・子育て世代への支援

1 グループ

- ・子育て世帯が自ら困っていることを声として挙げるにはハードルがあるので、まずは保育所・小学校など必ず行かなければならない接点が重要になる。また、そういった声を挙げたい・相談したいと思えるような魅力的な場をつくる必要がある。
- ・まずは自分たちの子育て支援の現場を全うし、さらに地域の市民としての自覚を持って、市民参加の場に参画することが大切だと思った。
- ・きっかけは子どものためではなくても、自分自身が楽しく地域の人たちとつながりを持てるような活動に参加していく。

2 グループ

- ・有意義なディスカッションができて、こういう機会をいただけたことに感謝している。
- ・子どもから見て「顔が見える大人になる」ということが最も重要なのだと思った。いろいろな役割・関わりがある大人たちが子どもたちに顔を覚えてもらって、地域の中につながりに活かしていく。

- ・その関わりが多世代にわたっていて、多様な視点を得られて、大人同士もつながっていて次世代に継承していくが必要になる。
- ・私たち自身が、勇気をもって一步を踏み出す、そして私たち自身が楽しむということが大きな気づきだった。

3 グループ

- ・情報の発信・共有が最も大切だという意見が出た。
- ・一步踏み出す、ニーズを知るための、声かけがまず重要。
- ・市役所への要望はみんなでパブリックコメントを出そうという話になった。
- ・ファシリテーターの方にも意見のまとめを大変助けてもらった。

◆地域の担い手の発掘・育成

4 グループ

- ・今回の話し合いを通じた最大の収穫としては、非常に困っている課題を共有できたこと。
- ・市民のニーズをいかに探っていくかということが重要。
- ・実は地域には何かをやりたいと思っている人はいる。しかし、新しいことを受け入れづらい風土があり、担い手を摘んでしまっている場合がある。確信を恐れず、地域も意識を変え、効率的な運営をしていくことが必要。

7 グループ

- ・多様な人が参加してグループで議論できてよかった。
- ・担い手の発掘・育成は非常に深刻。
- ・どういう人が求められているか、常に情報を発信できるような媒体が重要だという話になった。
- ・お互いに認め合う・褒め合うことが必要だし、長く活動している私たち自身がそれぞれ生き生きとしながら続けたい、新しく入ってきてもらう人にも生き生きと活動できる場を提供したい。

◆公共施設再構築の住民合意のプロセス

5 グループ

- ・登場人物がたくさん出てきたが、市長・議員に意見を伝えるために、整理・集約する意見が出てきて学びになった。
- ・コミュニティづくりをしていくために、まずは共通の趣味や楽しさを基礎にしていく。
- ・これを策定委員会がどう活かしていくか、どういう反応があったか、しっかりと情報公開していただきたい。

◆地域の防災・安全への取り組み

6 グループ

- ・まずは自分の命を助けるという自助。
- ・一番の問題としては、それぞれの防災に関する情報や動きをどうまとめていくのか。
- ・最後には、互いに助け合うための自助・共助が大切だということが共通した。ただ、これをいかに実現していくか、ということには課題がある。防災というものは難しい。

9 グループ

- ・はじめは市への要望なども出ていたが、私たち自分自身でやるべきことがあるのではな

いかと気づいた。

- ・まずは自分自身がやる・防災訓練などに参加する。コミセンなどの地域の集まり・グループで備える。消防署などの専門家の助けをもらう。
- ・情報の発信・連携、人・団体の連携を進めていきたい。
- ・最後には、未来の武蔵野市の防災のために、高齢者だけではなく子どもたちに重点を置きたいという話になった。

◆緑・環境を守る取り組み

8 グループ

- ・グループに集まっていたのは緑・環境の専門家の方々に、学びながら過ごすことができた。
- ・とにかくこれ以上まちの緑を減らさないでほしい。緑豊かな武蔵野市を未来につくっていききたい。
- ・いま実際にそれぞれがやっている活動を、少しずつ横につなげて、同じ方向を向いてやっていくことが必要だと思った。

◆市民活動団体の相互連携

10 グループ

- ・相互連携をする上でどんな団体があるかということを知り合えていない。情報の一元化・一覧化ということが必要ではないか。武蔵野プレイスや社会福祉協議会など、それぞれの登録団体が情報共有されるだけでなく、一元化されると良い。
- ・視覚障害当事者のひとりとして、多様な人がしっかりと情報を受け取れるということを望んでいる。

11 グループ

- ・いろいろな方のいろいろな視点で意見が集まって、良いアイデアがたくさん出た。
- ・市の職員にも市民活動団体の真剣さを見てもらえたと思う。
- ・このような交流が世代間交流の基礎だと思う。
- ・団体を入りやすく抜けやすい場にしたい。自由な部分があるということは重要。

12 グループ

- ・これだけ多くの団体が集まって、このパワーを使わない手はない。相互連携を図っていききたい。
- ・市役所で音頭をとっていただけると良い。市民の自主性を重視していてあまり前面に出していないかもしれないが、市役所の役割は大きい。交流の場もつくっていただきたい。
- ・こういう機会をいただけて、少しは市政に参画できたという時間を持つことができ、大変楽しい時間だった。

8.各グループの模造紙のまとめ

子ども・子育て世代への支援（グループ1）

理想の地域像・ありたい姿

子育て支援

- ・働くママの相談窓口
- ・働くママの交流会
- ・子育て中のお母さんへの支援
- ・子どもの一時預かりのできる場所

地域のつながり・交流

- ・信頼関係を互いに持てる人間関係づくり
- ・顔見知りが多い関係
- ・高齢者との連携
- ・多世代交流ができる場所

教育

- ・「生きる力」もっと自然の中で自由に遊べる時間と場所
- ・具体的な事物に触れ合える
- ・子どもの忙しさをなくす
- ・戦争の加害について学ぶ

理想の実現のためにやりたいこと

相談・情報

- ・相談窓口になる
- ・子育てで困っていることを聞く
- ・保護者と子ども以外の話をしてみる
- ・家の中にこもりがちな母親たちの支援
- ・地域の情報を集めておく

居場所・イベント

- ・子どもも大人も居心地が良い場所にする
- ・コミュニティスペースに立ち寄る理由をつくる
- ・高齢者から子どもまで集まれる場所をつくる
- ・大人だけのクラフトビール愛好会
- ・誰でも参加の木エクラブ
- ・お昼ご飯食べようツアー
- ・誰でも参加BBQ
- ・コーヒーと焼き菓子をつくってみる

協働・市民参加

- ・協働の関係づくり
- ・市民参加
- ・地域住民としての自覚を持つ
- ・地域・子ども館への参加
- ・大学生ボランティアに手伝いをお願いする

実現に向けて必要なこと・課題

- ・子どもが豊かに育つことが豊かな地域をつくる
- ・子ども・先生の多忙化の解消
- ・教職員の増員
- ・丁寧に教えてくれる人
- ・学習内容の軽減
- ・自己実現
- ・業務のICT化
- ・情報をまとめたサイト
- ・国・都・市・民間のお金をまとめる
- ・助成金
- ・勇気
- ・時間
- ・人とのつながりを広げる

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・母親
- ・父親
- ・祖父母
- ・乳幼児
- ・小学生
- ・教職員
- ・保育士
- ・介護士
- ・市の職員の増員
- ・保育のアドバイザー
- ・先輩ママ
- ・コーディネーター
- ・コミセンのおじさんおばさん
- ・高齢者の語り部・遊びの達人

施設・団体

- ・保育所
- ・幼稚園
- ・小学校
- ・児童館
- ・市民会館
- ・寺院
- ・神社
- ・集まりたくなる心地よい場所
- ・自由に使える場所
- ・開かれたイメージ
- ・子育て関連が一箇所に集まっている

子ども・子育て世代への支援（グループ2：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

地域のつながり・交流

- ・人が近い
- ・近所に知り合いがいる
- ・地域のリーダーがいる・見える
- ・相談できる・頼れる人がいる
- ・田舎っぽい温もり
- ・スマイル！
- ・世代を超えてつながれる
- ・世代間交流が盛ん
- ・世代を問わずに遊べる

多様性・関係性

- ・多様性
- ・「ねばならない」ではない
- ・認め合う
- ・変化を楽しむ
- ・分けない
- ・制服が嫌だ
- ・大人も遊ぶ
- ・夫婦仲良く
- ・ゆとりある
- ・気軽に

地域全般

- ・交通・買い物が便利
- ・安心・安全、電柱撤去、道幅が広い
- ・水道水の美味しさの維持
- ・公園の害虫対策
- ・担い手に困らない、若い世代が活躍

理想の実現のためにやりたいこと

居場所・イベント

- ・多世代交流サロン
- ・地域のお茶会
- ・誰でも食堂
- ・ようこそ先輩
- ・みんなのカフェ
- ・子どもキャンプ、登山
- ・おしゃべり会、飲み会、座談会
- ・多言語運動会
- ・子育て応援講座・WS
- ・国際理解授業
- ・ゲーム会、ボードゲーム

協働・市民参加

- ・利害関係なく積極的に関わる
- ・地域で子育てしている姿をアピール
- ・楽しんで活動する
- ・自分のマインド
- ・ボランティア
- ・ねぎらう
- ・敬う
- ・共感
- ・よりそい
- ・平らに接しあえる人
- ・顔と名前を覚える
- ・笑顔
- ・世代関係なく活動できる環境を整える
- ・変えていく姿を見せる

実現に向けて必要なこと・課題

- ・勇気
- ・わからないから一歩が踏み出せない
- ・忙しい母をやる気にさせること
- ・学童じゃないので人を呼べない
- ・継続的な担い手
- ・人員
- ・運営する人、参加する人
- ・地域団体の相互交流
- ・つながり
- ・人の定期的な確保
- ・スペース
- ・公的施設の提供
- ・場所の定期的な確保
- ・PR・情報発信
- ・周知方法
- ・使いやすいフィードバックの仕組み
- ・会議前の雑談
- ・寄付
- ・経費
- ・お金
- ・寄付などの行いやすい法整備

子ども・子育て世代への支援（グループ2：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・子ども
- ・中高生
- ・大学生
- ・お父さん・お母さん
- ・お母さん同士
- ・おじいちゃん・おばあちゃん
- ・保育士
- ・学校の先生
- ・学校に一人いる地域コーディネーター
- ・地域住民・市民
- ・近所のうるさいおじさん
- ・家族以外の大人
- ・コミセンの役員
- ・コミセン祭り実行委員長
- ・商店街の人
- ・市の職員
- ・リーダーについていくフォロワー
- ・次世代の担い手
- ・自分たちで地域を変えていく人
- ・ジャンボリーに関わる人
- ・地域をつないでくれる人
- ・顔が見える関係
- ・みんなの余裕を引き出せる
- ・話を聞いてくれる人
- ・悩みを聞いてくれる人
- ・一緒に楽しんでくれる人
- ・助けたり助けられたりできる人
- ・忙しくてなかなかつながりがないよね
- ・地域に関わろうとしない人の存在

施設・団体

- ・コミセン
- ・保育園
- ・武蔵野市
- ・教育委員会
- ・東京電力
- ・PTA
- ・青少協
- ・地域の団体
- ・ひまわりまま
- ・ヒッポ

子ども・子育て世代への支援（グループ3：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

子育て支援

- ・母親がリラックスできていることが子育てでは一番
- ・公園増設
- ・児童館増設
- ・活動できる場所がある
- ・受け入れるお店・交通
- ・子育て周辺の環境（公園）
- ・相談支援のあり方
- ・子育て相談をもっと身近に
- ・相談先の整理
- ・兄弟子育ての相談
- ・0123での子育て相談をもっと詳しく
- ・支援体制の宣伝を
- ・人権その他相談をサンダルばきで
- ・保育の質を高める
- ・家賃を安く
- ・予算をつけて環境整備・基盤をしっかりつくる

地域のつながり・交流

- ・わかりあえる・身内になれる
- ・助けてくれる仲間がいる
- ・顔見知りになる
- ・地域の理解
- ・子どもを受け入れられるまち

教育

- ・教育と福祉の連携
- ・消費者教育を市全体で取り組む
- ・生きる力をソフト面で教育

理想の実現のためにやりたいこと

居場所・イベント

- ・女の子のヘアアレンジ講座
- ・イベントのヘアセット
- ・ポイントメイク
- ・親子ヘアCut
- ・リラックスヨガ
- ・親と子など世代を超えた講座
- ・障害や人権を学ぶ講座
- ・食・環境の安全性
- ・クイズから考えて理想の地域・やさしい地域へ
- ・いい親になりすぎない・休む

協働・市民参加

- ・顔を出す
- ・つながる
- ・話をする・聴く
- ・仲間を増やす
- ・うわさを広める
- ・少しずつイベントに参加
- ・参加しやすいようにする
- ・参加してよかったものを広める

実現に向けて必要なこと・課題

- ・きっかけ
- ・一歩を踏み出す
- ・参加する
- ・ニーズを知る
- ・巻き込む
- ・声かけ
- ・手を差し出す
- ・損得勘定
- ・小さなことを意識
- ・情報の収集
- ・情報の共有
- ・情報の発信
- ・行動の発信
- ・生の声
- ・うわさ
- ・市報詰め込みすぎ
- ・有名人

子ども・子育て世代への支援（グループ3：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ 児童・生徒
- ・ 友人
- ・ 他人
- ・ 子ども同士
- ・ 心理カウンセラー
- ・ 子育てのプロフェッショナル
- ・ 助産師
- ・ ママ友
- ・ パパ友
- ・ 民生委員
- ・ 団塊の世代
- ・ 地域コーディネーター

施設・団体

- ・ 行政
- ・ 市役所の各課連携
- ・ 文科省
- ・ 法務省
- ・ 武蔵野プレイス
- ・ 交流都市
- ・ 公園
- ・ 消費生活センター
- ・ コミセン
- ・ 青少協
- ・ PTA
- ・ 商店
- ・ 飲食店
- ・ 駄菓子屋
- ・ 社会福祉法人
- ・ イベント企画団体
- ・ ミニクラシック楽団
- ・ 路上クラシック
- ・ 障害児が前に出る場
- ・ 専用アプリ
- ・ 市報
- ・ Facebook

地域の担い手の発掘・育成（グループ4）

理想の地域像・ありたい姿

協働・市民参加

- ・ 主役は市民
- ・ マッチングサービス
- ・ 様々な世代の参加を活かす
- ・ 幅広い年齢層
- ・ 助けられるばかりではなく
- ・ 世代を超えた福祉の環
- ・ 市の職員が地域で住民と一緒に語り合う周回

団体・活動の活性化

- ・ 団体の活性化
- ・ 活動して楽しい
- ・ 良いつながり
- ・ OPEN・公平・楽しいコミセン

シニアの力

- ・ 小学生の現場学習に毎回200人
- ・ 現役時代の経験・キャリアを生かしてほしい→生きがいにつながる
- ・ 高度の専門性でなくてもいい
- ・ 老人が楽しく暮らせる社会
- ・ 体の具合が悪い人も地域に

理想の実現のためにやりたいこと

ニーズ把握・PR

- ・ 市民ニーズの把握とPR
- ・ 活動のPR
- ・ 若い担い手が集まれるようなPRの方法
- ・ 若い人への呼びかけ

団体・活動の活性化

- ・ 事業・運営のイノベーション
- ・ 会の和をよくする
- ・ 会の健康につながる活動

実現に向けて必要なこと・課題

- ・ 意識改革
- ・ 新しいことを拒絶しない
- ・ 失敗を恐れない
- ・ 意見を受け止めてくれる人が半分ぐらいいるといい
- ・ 担い手発掘の新しいPR方法は？
- ・ ニーズの把握
- ・ 市民個人のニーズの把握
- ・ ニーズの聞き取り
- ・ 若い人に任せる
- ・ 若い人の確保
- ・ 学びの機会の連携
- ・ 団体の運営方法
- ・ リーダー教育
- ・ 運営ノウハウを学ぶセミナー
- ・ 場所の確保

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ 能力のある人が活動に参加してくれる
- ・ マネジメント力がある役員
- ・ 協力員や運営委員はいる
- ・ 学びたくしてくれる外部の人
- ・ あらゆる世代
- ・ 新規人材
- ・ 定年後の人
- ・ 潜在する人材を市民が発掘
- ・ 働きながらも地域に関心を持ち活動できる方法を考える
- ・ 団体の役員の不足
- ・ なり手がいない実情が深刻
- ・ やりたいこと別人材バンク
- ・ 時間がなくても地域に関われる

施設・団体

- ・ コミセン
- ・ コミセンは運営だけでいっぱいいっぱいのところも
- ・ 青少協
- ・ 福祉の会
- ・ 市の無料施策はPRの芽を摘んでしまっている

地域の担い手の育成・発掘（グループ7：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

市民参加・つながり

- ・ひとりひとりのいきいきとした活動の場がある
- ・真の多様性を理解した市民参加の姿
- ・子育てにも高齢者を活用
- ・高齢者と若い人がともに協力し合い自分の住んでいるまちをより良い安全な住みやすいまちに
- ・若い世代がコミセンを利用するだけでなく運営に積極的に参加してほしい
- ・子どもの頃から地域活動に親しむ→大人になっても無理のない範囲
- ・市民それぞれが小さな活動をしている
- ・一人一人が自分のこと以外に協力する心を持つ
- ・人のため・自分のため気持ちよく
- ・住み続けることでみんなが愛着・埃を感じられる
- ・行政視点の市民活動ではなく、市民視点の活動が多い市
- ・市民自治とは行政が市民に求める役割ではなく、市民の自覚・自律的活動
- ・地域の方がみんなあいさつを返し、顔が見える関係性
- ・地域の交流が多く安全・安心な暮らし

市民活動運営

- ・問題に出くわしても、解決した上で活動が続けられる地域
- ・互いに一兵卒の気持ちを忘れずにいられるリフレッシュできる仕組み
- ・どこよりも市民活動が多い市
- ・補助金ではなくクラウドファンディングが多い市

情報発信・マッチング

- ・市民活動情報が多くの人の目にとまる環境
- ・やりたいこと・ニーズが見つけやすい仕組みがある

行政の支援

- ・地域の自主的な活動に対しきめこまやかな支援が得られる
- ・行政が市民の力を信じている市

理想の実現のためにやりたいこと

担い手の発掘・参加の入り口

- ・イベントの活用・楽しさの演出
- ・キャリアの浅い人だけが参加できるスキルUPや情報交換の場づくり
- ・広い世代に活動をプレゼンする場
- ・担い手を増やす呼びかけをして豊かな活動をしたい
- ・地域活動について若い人の意見を聞きたい
- ・私のまわりの人は少し休ませてあげたい
- ・小さな仕事をつくる
- ・ボランティアを小さな単位で募集する
- ・一人でも多くの人に関われる仕組み
- ・理解し合う
- ・同じ感がけたの仲間を増やす
- ・災害時にも手を動かせる・高齢者の見守り・支え合いができる人を増やしたい
- ・様々な活動に興味を持ちつながりをつくる
- ・それぞれの活動の歴史やまちの歴史について学び・広げる

情報発信・マッチング

- ・各団体をつなぐシステム
- ・やる気とニーズをつなげる場づくり
- ・具体的なボランティアリストをいつでも見られるようにする
- ・子育て世代と地域のお店をつなぐ
- ・子育て世代と団体や活動をつなぐ

実現に向けて必要なこと・課題

- ・人の意見を尊重する・ほめる
- ・お互いの意見に耳を傾ける
- ・尊重しあう
- ・お互いに思いやることが大事
- ・浅く広くでも少しでも始めることで変わるかも
- ・できる小さいことから
- ・ハードルを下げるための努力
- ・広げることでハードルを下げられることも
- ・お金を稼げるボランティア
- ・自分が好きなことをできるボランティア
- ・コミセン活用の意識変革（レンタル→シェア、借りる→共有）
- ・地域のシェアリングの意識
- ・住民意識の変革・住むことの意味
- ・啓発活動
- ・発信を受け止める行政の力
- ・みんなで話し合う場
- ・話し合いをする場所の設定
- ・課題の共有・解決への手順
- ・若い人に地域資源の大事さを知ってほしい
- ・情熱
- ・やる気

地域の担い手の育成・発掘（グループ7：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ 社会人
- ・ 壮年
- ・ 働き盛りの40-50代
- ・ 在勤者
- ・ 子育て世代
- ・ 男性高齢者
- ・ 行政の人
- ・ 市民活動に入り込む行政職員
- ・ 生活視点を持つ行政職員
- ・ 定年退職者ばかりではなく勤めている人も
- ・ 学生
- ・ 高齢者の話を聞いてくれる大学生
- ・ 子ども
- ・ 問題解決を手伝う専門職
- ・ 幼児以降の市民全員
- ・ 活動意欲のある市民
- ・ 喜んでボランティア活動できる人
- ・ コーディネーター
- ・ ほめる人
- ・ 寛容な人
- ・ 新しいものを否定しない人
- ・ 適材適所を考えられる人
- ・ 気軽に一緒にスポーツしてくれる人

団体

- ・ コミュニティ協議会
- ・ 町内会・自治会
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 青少協
- ・ 地域内の各団体
- ・ 企業
- ・ 公共スペースの管理者
- ・ 市民の声に真摯に対応する行政

公共施設再構築の住民合意のプロセス（グループ5：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

公共施設のあり方

- ・ 類型別公共施設
- ・ これからの公共施設は多機能が良い
- ・ 井の頭公園と調和のとれた場所である公会堂を活用する
- ・ 集客力のある吉祥寺を活用する
- ・ 芸術価値の高い貯蔵されている作品があるのでは？
- ・ コミセンでハードなスポーツができるスペースのある建物
- ・ つくる時の費用が大でも長い目で見るとコストが低い
- ・ 学校の統廃合の距離の問題と児童の安全確保
- ・ 大きい施設で施設も広ければ、騒音問題も少ないのでは
- ・ 公共施設の設置場所の公平・分散化

合意のプロセス

- ・ 公共施設のあり方WS
- ・ 市からの一方的ではない説明
- ・ 情報公開・提供
- ・ 行政→議員の民意を組んだ説明

まちづくり

- ・ 吉祥寺のまちづくり
- ・ 道路の整備
- ・ コミュニティづくり
- ・ 地域の学校
- ・ インクルーシブ教育
- ・ 建物だけではなく道路を考えたい
- ・ 段差の大きい道は利用しづらい
- ・ 幅広い世代が利用・出入りできる
- ・ 吉祥寺東の1丁目市有地の活用
- ・ 将来を楽しく話せる場
- ・ 静かで自然豊かな文化都市
- ・ 死ぬまで住みたいまち
- ・ 住み続けたいまち

理想の実現のためにやりたいこと

合意のプロセス

- ・ 市民ベースでの受け皿づくり
- ・ 会として地域住民にアンケートをとる
- ・ 地域懇談会で話し合ってみる
- ・ 広報誌で地域の方々に知らせ反応を待つ
- ・ 他の団体に協力を呼びかけていく
- ・ 地域の支え合いについて、個人情報の問題もあるが率直に聞きたい

コミュニティ・イベント

- ・ コミュニティ活動
- ・ 場づくり・仲間づくり
- ・ 楽しく活動する
- ・ コミセンなどお祭り・場づくり
- ・ 同じ趣味の人による地域交流
- ・ コーラス、お花、俳句、囲碁、将棋
- ・ 福祉の会
- ・ 秋祭り
- ・ マッチング

教育・人材育成

- ・ 武蔵野市民としての誇り・愛着心を育む
- ・ 教育委員会「市民科」に期待
- ・ 教育への協力
- ・ 市民向け説明力・コミュニケーション力・論点整理力の勉強会の開催

まちづくり

- ・ 地域のまちづくり
- ・ ふるさと武蔵野
- ・ 地域活性化に尽力する
- ・ 弱者への配慮のできるまち
- ・ 健常者も弱者もともに暮らせるまちづくり
- ・ 自身からまちを歩く

実現に向けて必要なこと・課題

- ・ コミュニケーションの取り方
- ・ お互いの意見を聞く姿勢
- ・ 豊島区に学ぶ
- ・ 市民と市外のバランス
- ・ 理想は口に出そう・書こう
- ・ 無駄のようでも希望は出そう
- ・ 欲張ってみよう
- ・ 他の人の希望を聞くと影響されるのが良い
- ・ 希望を表明する場の設定
- ・ 長期的な視点
- ・ 親世代の教育
- ・ 将来の子どもたちに伝え残すことのできる
- ・ 地域での子育て
- ・ 世代を超えたネットワークづくり
- ・ 子どもが安心できる大人を知っている
- ・ マッチング機構の構築
- ・ ユニバーサルデザイン
- ・ 基本的なまちづくりの考え方
- ・ 安心・安全なまちづくり
- ・ 防災・防犯
- ・ 交通ルールの遵守・マナー向上
- ・ 安全を通じての人のつながり
- ・ ターミナルが必要
- ・ 井ノ頭通りのバス停
- ・ 電線の共同溝化

公共施設再構築の住民合意のプロセス（グループ5：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ 住民
 - ・ 全ての世代の市民
 - ・ マンション住民
 - ・ パラリンピックを意識できる人
 - ・ 市長
 - ・ 市民が選んだ議員
 - ・ レモンキャブ利用者
 - ・ ドライバー
 - ・ 交通弱者
 - ・ 文化の担い手
 - ・ 地主さん
 - ・ 地域計画プランナー
 - ・ 都市計画・建設関係の人
- ・ メリット・デメリットを整理して公開する人
 - ・ いろんなことを相談できる人
 - ・ 反対するより
 - ・ 防災に長けている人
 - ・ スポーツ経験者
 - ・ 駅に行く人
 - ・ ムーバス沿線の人
 - ・ 元気で動き回れる高齢者
 - ・ 買い物する人
 - ・ 説明スキルのある行政職員
 - ・ 様々な意見を取りまとめるスキルのある行政職員

施設・団体

- ・ まち協
- ・ 開発公社
- ・ 武蔵野市の文化を考える市民の会
- ・ 企業
- ・ 商店会
- ・ 大小の商業者
- ・ コミュニケーションをとれるお店
- ・ ゼネコン
- ・ 大手ディベロッパー
- ・ 不動産
- ・ バス事業者
- ・ 行政機関をまわるバス
- ・ 吉祥寺の駐車場
- ・ 井の頭公園
- ・ 公会堂
- ・ 文化団体
- ・ 文化振興基本方針
- ・ 行政
- ・ 総合政策部
- ・ 都市整備部

地域の防災・安全への取り組み（グループ6）

理想の地域像・ありたい姿

日常の備え

- ・まず自助、共助の前に近助
- ・自助の強化で身を守る
- ・つながりある近所との顔の見える共助の力
- ・地域の防災は地域で行う！
- ・お互いが助け合う活動
- ・組織にダブル加入している人が多い
- ・消防用具の地域への大量配置
- ・管制の計画の問題点はないのか？
- ・より弱者な方々への安心の提供

災害発生時の対応

- ・被害想定がわかる
- ・発生時の初期に必要な避難
- ・突発して起きる出来事への対応
- ・復興への道筋がわかる
- ・在住勤務医の活用

理想の実現のためにやりたいこと

自助

- ・現状把握
- ・情報収集
- ・地域資源を知る
- ・自助努力

共助・防災

- ・隣近所の助け合い組織を立ち上げる
- ・自主防災会を市内全域につくる
- ・防災会の支援
- ・初動要員を含めた抜き打ち訓練の実施
- ・防災・災害対策訓練の強化
- ・机上訓練の実施
- ・状況把握能力の向上
- ・取りうる対処策のためのイメージトレーニング
- ・防災訓練
- ・啓発活動

市政

- ・税を無駄にしない適正な施設の整備
- ・選挙（民主主義）

実現に向けて必要なこと・課題

- ・最大限の自助の実践が共助につながる
- ・防災備品と環境づくり
- ・標識の整備
- ・東京防災（冊子）
- ・小学生からの防災教育
- ・小中学生・町内会などへの具体的な教習
- ・地域によって関心に温度差→全市で共有
- ・行政の中での議論・アップデート
- ・公開されたことを議論すること
- ・公助の災害時活動を市民に説明
- ・安全な経路を事前に地域で考える
- ・支援者が必ず駆けつけられる仕組み
- ・弱者のみ使用できる仕組み
- ・伝言システムの地域ごとの仕組み
- ・情報が集約できる場所を決める
- ・できること・できないことの明確化
- ・事態が起きてからの仕事・役割
- ・災害時のリーダーづくりが安全・安心につながる
- ・防災を常に心がけ、話し合う場をつくる
- ・PDCA

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・発災後に手を挙げたリーダー
- ・防災組織の関係者
- ・防災推進委員
- ・訓練を受けた中学生
- ・市民以外の被災者
- ・民生委員
- ・地域住民のまとめ役
- ・医者

施設・設備・団体

- ・消防署
- ・消防団
- ・自主防災組織
- ・保健所
- ・学校
- ・支え合いステーション
- ・福祉の会
- ・避難所
- ・水道
- ・トイレ
- ・防災無線
- ・ホワイトイーグル
- ・ブルーキャップ

地域の防災・安全への取り組み（グループ9）

理想の地域像・ありたい姿

防災

- ・防災家庭支援
- ・防災訓練
- ・防災訓練による啓発
- ・防災相助体制
- ・防災救急体制
- ・防災組織の連携
- ・避難所の充実
- ・市として原点に戻って計画づくり

防犯

- ・防犯パトロール体制
- ・防犯学校
- ・防災家庭支援

つながり

- ・横のつながりがあるまち
- ・近隣住民の顔と名前がわかる
- ・市民参加は継続的なものに

理想の実現のためにやりたいこと

自助・備え

- ・防災訓練の整備
- ・地震対策
- ・災害備蓄
- ・市営マンションの防災の話し合い
- ・もう一度家庭の防災
- ・家庭・家族内で話し合い
- ・いざという時は自分自身で
- ・防災・防犯パトロール
- ・救急法の習得
- ・AEDの使い方
- ・各団体の技能・技術を活用する

共助・つながり 市民参加

- ・関連行事への参加
- ・お祭りも役立つ
- ・コミセン広報誌で呼びかけ
- ・コミセンの運営委員としての啓発
- ・市政の主役は自分たちと自覚して自分たちでやるべきことはやる
- ・地域人材の活用
- ・子どもたちの生活力アップ
- ・防災・防犯ボランティア
- ・地域の人の見守り
- ・地域の人と人のつながり
- ・ご近所同士のあいさつ
- ・選挙権の行使
- ・市への情報提供
- ・地域の人への情報提供

実現に向けて必要なこと・課題

- ・家庭でキャンプ・食事
- ・お祭りへの参加の体験
- ・路地を通行止にしてお茶会・子ども会
- ・できるだけ多くの参加者
- ・転入者にあいさつをするきっかけ
- ・地域で育てる
- ・子どもへの指導
- ・子どもたちの生活を向上
- ・口うるさいおじさんお婆さん
- ・学ぶ
- ・講習会への参加
- ・コミセンの役割
- ・行政の役割
- ・市の理解

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ママ友パパ友
- ・保育士・教員・学校関係者
- ・病院関係者
- ・ボランティア
- ・民生委員
- ・民間パトロール
- ・防災リーダー
- ・リーダーの存在・育成
- ・団体の責任者
- ・市職員・公共施設職員
- ・市長
- ・元市長
- ・市議会議員
- ・大きなことを出す人はだめ
- ・男性より女性の方が視野が広い
- ・具体的な指示が出せる人

施設・設備・団体

- ・単独ではなく連携を！
- ・団体間をまとめていく
- ・消防団
- ・コミセン
- ・PTA
- ・町内会
- ・マンション組合
- ・スポーツ関係団体
- ・民間企業
- ・介護施設
- ・市の体制・役割

緑・環境を守る取り組み（グループ8：1／2）

理想の地域像・ありたい姿

緑・農地

- ・ 緑のあるまち
- ・ すてきな桜並木をずっと保っていけるまち
- ・ 自然体験ができるまち
- ・ 地域住民が公園・緑地のお世話をし、みんなで仲良くつながる地域
- ・ ムダなお金を緑にまわして
- ・ 子どもが草花で遊んだり昆虫探しをしたりできる地域
- ・ 電柱を減らして緑が眺められる街並み
- ・ 公園・緑地・ビオトープ・玉川上水・畑・民家の庭などが生き物の生きる場所としてつながっている
- ・ 農業体験ができるまち
- ・ 農家さんにも農地の必要性を
- ・ 農地を逆に増やす
- ・ 見る側とやる側に分けない
- ・ やっててくれてありがとう
- ・ 市外の人にも見てもらおう

フードロス・生ゴミ

- ・ 子どもたちに食のルーツを伝えられるまち
- ・ 食べ残しのゴミがどうなるのか考えることができるまち
- ・ 食べることを通してつくるところから捨てるところまで見えるまち
- ・ 生ゴミ減

フェアトレード エネルギー

- ・ フェアトレードが普通に知られている状態
- ・ 自然エネルギー100%
- ・ どんな人にもやさしいまち

理想の実現のためにやりたいこと

目標・優先度

- ・ 数字でわかる目標設定
- ・ あるべき姿・具体的目標のマップ化
- ・ 優先度をどうつける？
- ・ 進捗を互いに報告しあえる場

環境教育・学び

- ・ 森の学校（みんなで学ぶ）
- ・ エコプラザと協力して水と緑のネットワークづくり
- ・ 学びの横連携
- ・ 学校ビオトープの活用提言
- ・ 学校に協力して緑地での環境教育

ネットワーク・情報

- ・ 地域の人・子ども・学校のやってみようを集める
- ・ 集めたことをつなげる
- ・ 人脈を増やす
- ・ 情報収集・共有・発信
- ・ 柔軟な考え方ができるように学ぶ

ゴミ・エネルギー

- ・ 買わない・もらわない・捨てない
- ・ もったいない
- ・ ごみになるものを配らない
- ・ クリーンセンターの電力をもっと広い地域に広げられないか

実現に向けて必要なこと・課題

- ・ 活動は一人で取り組むのは厳しい
- ・ みんなで一緒にやるのが大事
- ・ 簡単なことの声かけを
- ・ しゅきみ
- ・ 話すことが楽しいと伝える取り組み
- ・ 子どものご両親にどう理解を？
- ・ リタイア後の男性の取り込み
- ・ お父さんお帰りがささいパーティ
- ・ 時間・人のつながり
- ・ 市による場づくり
- ・ 話ができる場
- ・ コミセンや市民発信で、大人と子どもと一緒に学び
- ・ 一般市民の巻き込み
- ・ 優先度
- ・ 費用対効果

緑・環境を守る取り組み（グループ8：2／2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・子どもたち
- ・親
- ・地域のおじさんおばさん
- ・新しく引っ越してきた人
- ・農家の人
- ・市役所の人
- ・教育委員会の人
- ・学校の先生
- ・給食に関係している人
- ・ファシリテーター
- ・現役世代
- ・田中先生

施設・団体

- ・コミセン
- ・市民会館
- ・専門家
- ・市民団体
- ・東京都
- ・武蔵野市の担当課
- ・市役所内部のつながり・連携
- ・公共施設
- ・企業
- ・学校
- ・お店

市民活動団体の相互連携（グループ10）

理想の地域像・ありたい姿

つながり・居場所

- ・居場所のあるまち
- ・挨拶ができる・顔見知りがいる
- ・むこう三軒両隣の助け合い
- ・お年寄りも子どもも仲が良いまち
- ・家族のような地域
- ・ゆるいつながりがある地域
- ・活気があり昔の雰囲気もあるまち
- ・壁のないまち
- ・知らんふりをしない適度なお節介ができる寛容さ

情報発信・市民参加

- ・多方面への伝達手段
- ・市から離れても情報を得られる
- ・情報が伝わる仕組み（広報）
- ・在職中から地域活動ができる体制
- ・男性の育休推進
- ・市議会議員の半分は女性に

多様性・安心安全

- ・心のバリアフリー
- ・多様な人々との交流
- ・障害のある方々も含む交流の場
- ・年齢・性別・国籍・障害の有無も関係なくつながっていく
- ・多様な人々の居場所
- ・安心安全、災害時に助け合うまち
- ・緑の多いまち

理想の実現のためにやりたいこと

つながり・居場所

- ・生きがいくくり
- ・楽しむ、心と体の元気
- ・家ではできないスポーツ
- ・工芸ワークショップ
- ・私自身の活躍の場をつくっていく
- ・講師の育成
- ・シニア学びあいネットワーク
- ・失語症の方への音楽の提供
- ・男の手料理
- ・おばあちゃんのスナック菓子
- ・じじいのおもちゃ修理

情報発信・市民参加

- ・市の活動団体を紹介するWEBサイト
- ・いろいろな団体や個人を必要とされている人につなげたい
- ・市報等が破棄されない
- ・市報等の有料化、文字拡大化
- ・情報を広げる・キャッチする
- ・投票に行く人を増やす
- ・女性市議半数化条例化

多様性・安心安全

- ・多様な人が互いを肯定できる社会に
- ・障害当事者や家族が笑顔になる活動
- ・災害時に必要な支援体制づくり
- ・園児送迎サービス
- ・スクールエンジェル

実現に向けて必要なこと・課題

- ・WEBサイトの管理方法
- ・情報の一元化
- ・WEBサイトにかかる費用
- ・WEBサイトを管理する団体の公募
- ・情報PR
- ・活動している団体と個人の見える化
- ・やりたいこととのマッチング
- ・ボランティアガイド
- ・市民サービスの一本化
- ・アンテナをはる
- ・人の話を聞く
- ・放送で伝える
- ・努力
- ・家族の理解
- ・仲間を手伝う意識
- ・空き家情報の一元化
- ・拠点・場づくり

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・良識ある市民
- ・クォーター制
- ・このワークに参加している、主に女性
- ・人をつなげられるキーパーソン
- ・家事ができるサラリーマン
- ・男も休みをとる
- ・市長
- ・議員
- ・市職員

団体・施設

- ・中間支援団体
- ・ボランティアセンター
- ・コミュニティ協議会
- ・福祉の会
- ・デザイン団体
- ・社会福祉協議会
- ・NPO
- ・アンダンテ
- ・ペピータ
- ・みんなでごはん
- ・クラフトぱく
- ・防災団体
- ・ツッティ
- ・TCTが遅れている

市民活動団体の相互連携（グループ11）

理想の地域像・ありたい姿

つながり・居場所

- ・困った人に声をかけられる
- ・顔見知りの多い地域
- ・あいさつを交わし合う
- ・声をかけあう
- ・田舎・村のようなまち
- ・平和教育
- ・武蔵野が好き・帰ってくる
- ・ひとりぼっちのいないまち
- ・高齢者の心と体の健康
- ・得意を生かして参加
- ・個性が生きるまち
- ・3駅それぞれが高め合う
- ・地域で活動する団体の連携
- ・地域間のつながり
- ・若い世代の参加
- ・世代間交流
- ・コミセンによるつなぎ・情報集約と発信
- ・大人の知恵を分け合う交流の場

子ども

- ・子どもの声が聞こえるまち
- ・子どもたちが遊んでいるまち
- ・ファミリーで公園
- ・親子で活動する場所
- ・学校以外の居場所づくり
- ・小中学校で地域の人と美化活動
- ・子どもの安全

理想の実現のためにやりたいこと

学び

- ・他市の地域にツアーする
- ・武蔵野市をもっと知る
- ・コミセンカウンセリング

困りごと・相談

- ・困りごと案内人
- ・相談アプリ
- ・困りごとヒアリング
- ・世話焼き人養成講座
- ・地域の世話焼き人をつなげる
- ・世話焼きパトロール隊

情報発信

- ・IT化に向けてのスキルアップ
- ・地域メルマガ
- ・「富士見たより」を読んで楽しいものにする
- ・情報デリバリー・連絡方法

子ども

- ・親と子どもの心と体をリラックスさせる呼吸・エクササイズ
- ・お母さん・子どもの居場所
- ・父と子の集まり
- ・老人と若者の交流
- ・「富士見会」の活動

実現に向けて必要なこと・課題

- ・入りやすくぬけやすい団体
- ・コミセンのIT教育
- ・コミセンのためのIT勉強会
- ・コミセンへの近寄りやすさづくり
- ・コミセンにフリーWi-fi
- ・施設の多様化
- ・自由に使用できるパソコンなど
- ・パパの実態を知る
- ・日曜日はお父さんと
- ・地域デザイン事務所
- ・表現力
- ・地域メルマガの立ち上げ
- ・他市のNPO活動との交流
- ・見守り隊
- ・集客力を持つ人
- ・子育て施設
- ・来街者の巻き込み
- ・企業の協力
- ・日中留守がち
- ・地域の人を思う人を知ってほしい
- ・誰が支援者かわからない

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・大人から子どもまで
- ・親子
- ・昔を知るお年寄り
- ・笑顔の人、気さくな人
- ・ほんの少しおせっかいな人
- ・顔が広い世話焼き人
- ・困りごと案内人
- ・地域のリーダー
- ・ずっと住んでいる人
- ・専門家
- ・商店主
- ・アーティスト
- ・働く人
- ・WEBデザイナー
- ・ITを得意とする人
- ・マンション管理人
- ・ユニフォームのママさん
- ・戦争を体験した人

団体・施設

- ・コミセン
- ・人をつなぎやすい場所
- ・NPO
- ・市役所
- ・まちの医者
- ・地域の商店
- ・交番
- ・コンビニや個人のお店
- ・ホワイトイーグル

市民活動団体の相互連携（グループ12）

理想の地域像・ありたい姿

つながり・共助

- ・互いにあいさつができる関係性
- ・様々な年代・立場の人が参加協働できるまち
- ・時代にあった共助のカタチ
- ・個人の生活に深入りせずに災害時には助け合える
- ・認知症になっても人との関わりで地域で助け合える関係
- ・楽しい時間を共有できる人との絆
- ・コミセン・学校区以外の区割り
- ・年代によって理想が違う
- ・市としてのサポート体制

コミュニティ運営

- ・団体役員の担い手の確保
- ・入りやすく抜けやすい地域団体
- ・グループのつながり・横のつながり
- ・気遣いができるコミュニティ
- ・機会あふれるコミュニティ
- ・楽しいコミュニティ
- ・美しいコミュニティ

理想の実現のためにやりたいこと

つながり・共助

- ・地域に孤独な人がいないように見守り
- ・子育て中の親子を支援したい
- ・地域住民との交流
- ・世代を超えた交流
- ・共生できる遊び場
- ・いろいろな居場所づくり

コミュニティ運営

- ・いまやっている活動を一生懸命に
- ・これからもコミュニティ活動を続けて住みやすい地域にしたい
- ・柔軟な思考・チャレンジ
- ・若い世代を取り込む
- ・活動の継続と若い世代の育成
- ・若い人の負担にならないように
- ・誰でも参加できる茶飲み場の運営

協働・連携

- ・防災を書くにしたAll西久保のまちづくり
- ・今まで声をかけてこなかった団体との連携
- ・団体間の交流
- ・市民団体との協働・連携
- ・テーマ別や地域別の活動のコンビネーション
- ・市や他団体との情報交換の機会

実現に向けて必要なこと・課題

- ・心を聞きにくい・本当は話をしたい
- ・男性は地域の輪に入りにくい
- ・子どもがあいさつをしない時代
- ・同じような思いをしている人の輪
- ・後継者の育成
- ・リーダーの育成
- ・キーパーソン
- ・仲間
- ・人・場所・資金
- ・やる気・健康
- ・まちづくり情報の共有
- ・市民まちづくり講座
- ・継続的な行政の関わり・サポート
- ・市役所の声かけでの団体の交流
- ・コミュニティ構想がネックになっている
- ・行政との協働
- ・行政の方向性を具体的に伝える機会
- ・興味関心のない人に告知する方法

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・市民全員が主役
- ・自分の考えを他者に伝える人
- ・会いたくなる人
- ・話をしたくなる人
- ・元気をもらえる人
- ・課題解決をしてくれる人
- ・立ち入りすぎない人
- ・やさしいだけではない人
- ・常におだやかな心を持っている人
- ・どんな人でも受け入れ可能
- ・人の話をじっくり聞く人
- ・パパママ、ジジババ、子ども
- ・話せる人を育てるプロ
- ・機会を提供する人々

団体・施設

- ・楽しい場所・心地よい場所
- ・参加しがいのある団体
- ・誘い合って参加したくなる団体
- ・空き家
- ・いろいろな居場所
- ・行政との協働